

山小屋遂に完成す!!

山小屋建設委員長

郡 司

(四朗)

幸い前夜来の雨もあがり好天に恵まれて、十月二十七日皆様方の絶大なご支援のもとに盛大に挙行出来ましたことを、喜びを込めてこゝにご報告致します。ご協力本当にありがとうございました。

さて、山小屋建設工事着工までの経緯はO.B会報号外にてお知らせしておりますので、その後の経過報告の詳細から記します。

九月十五日に、建設工事着手後初めて工事状況の視察のため、現役部員が現地へ参りましたが、工事の方は未だ基礎工事が完了した段階で、建屋用の材木を目下製材中といふことでした。この時バス道

衝、教職員との折衝、会社回り、事業計画などが検討され、スキーバス、ダンスバーでの学生部と折衝した件では、成績が出ていたようですが、まず学生部と折衝した件では、山小屋を建てたことを大いに歓迎してくれて、来年度から現物供与の形態で年間五万円の援助を受けることが出来るようになりましたし、平床山

路から山小屋までの道を新設した件で、土地所有者のサレジオ高校へ道路敷許可願の手続きを行なつてきました。九月二十二日、久野(六期)莊時代使用していた食器類もと私で様上式に立会い、この時の工事で建屋の骨組みだけはほとんど出来上りました。

また現地が国立公園内であるため厚生省へ各種の書類を届けなければならぬのですが、この件につきましては和信建設の方へ一切の書類を提出しきを行なつて戴ける由です。しかし工学部関係は学長が余り積極的に賛意を示してくれないで、一括依頼して参りました。

十月月中旬の試験休みには現役が多勢にO.Bが二名程混つて現地の視察と、落成式に際する諸準備のため現地へ参りました。山小屋の方は屋根のカラートタンを葺き終つたままでした。山小屋の方は屋根の

金捻出のために学生部との折

りで末だ羽目板も床もついていはずもなく、わずかに長い工事が幾分遅れていますが、和信建設の方に二十七日の落成式を申入れて確約を

とりつけて来ました。この時は現役も落成式のために当日小学校から机や椅子を借りる交渉をしたり、弁当の予約、バスの予約を行なつたり、小屋のまわりの整地、井戸枠の製作など大いに活躍したよう

年たつた今やつと、此処に私達の山小屋が遂に完成したのです。この間の建設準備階段では建設予定地の選定、資金問題などで色々と困難が待ち受けていましたが、皆様方の厚い支援を受けまして、O.B.現役一致団結力を合せて山小屋建設が実現出来ましたこと

金にご協力を願い致します。なお、山小屋利用に際しての暫定的な管理運営規約と、利用のしおりは近日中に皆様方のお手もとにお送り致します。今冬は末だ蒲団などの完全な寝具が備つていませんので色々と不便な思いをすることもあるかとは思います。が、私達の山小屋です大いに山行にキーに利用して下さ
完納者
（一二期）

い。連絡は横浜国大ワンダー
フォーゲル部山小屋管理運営
委員会宛にどうぞ！

☆山小屋建設資金募金状況
(十一月三日現在)

（十一月三日現在）

一、寄付金総額

一時金 利子

一
九
三
二

四

卷之三

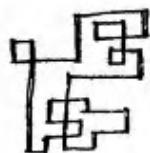
一時倂刀金

四

一、現設立金

一現行稿立卷

四



羽 島 子 本 合 田 藤 島 中 佐 久 間 田 細 鈴 木 佐 木 神 石 田 神 村 島 山 秋 原 小 木 曾 木 神 白 佐 (八期) (七期) (六期) (五期)

(六期) (七期)

頭金納入者

北山は今日も時雨しているようです。竹藪の道をぬけて、落柿舎、二尊院、滝口寺を経て化野の念佛寺へ、さらに清滝から清滝川に沿つて保津峡まで。おやおやこの辺まで時雨が足を伸ばしてきました。		この前に来たときにも初時雨にあつて、茶店で買った小さな傘に肩を半分づつねらして歩いたことを思い出します。今日はまた一人ぼつちです。	
弘明寺のキャンバスで二年間の再修業も束の間、またも関西の地に寓居することになつてしましました。四月一日に忽然と西の地に現れ、大阪一高砂一大阪そして神戸と転々とし、やつと神戸に着いたところです。		このことは大きな喜びでした。そして中途半端でなげ出してきていました山小屋も、無事に竣工式が終り、肩の荷がおりたよ	
大學にいた二年間は、嘉納先生の大いなる啓発を受ながら、OB会事務局の雑務係を務め月例の行事が軌道にのつた		うな気がします。	
関西の地へ戻つて来てみますと、関東では味合えないよ		うな日本情緒にふれることが度々です。今日も嵐山の駅を降りますと和服姿の娘さんが	
宮崎 (二期) 毎日々々は化学会社の開発研究で「実業家」の忙しさに追いついてしまいます。どうやら近くの天龍寺で大茶会が開かれていたからのようです。こんな緊晴らしい西の地にいながら、		と僕自身が、「実業家」を開放され、一人でキツネさんに会いに出かけてしまうものですから、	
甲山にも三回登りました。		OB会の関西支部としての活動を活発化しなければならないと思いつながら、休日になる	
には、淡路島、伊吹山、比良山へ出かけました。近くの六甲山にも三回登りました。		OB会の関西支部としての活動を活発化しなければならないと思いつながら、休日になる	
ことは大きな喜びでした。そら出かけて、嵯峨野や飛鳥路を歩き、「無駄な時間」と「お金」を費しています。夏には、淡路島、伊吹山、比良山へ出かけました。近くの六甲山にも三回登りました。		OB会の関西支部としての活動を活発化しなければならないと思いつながら、休日になる	
ことは大きな喜びでした。そら出かけて、嵯峨野や飛鳥路を歩き、「無駄な時間」と「お金」を費しています。夏には、淡路島、伊吹山、比良山へ出かけました。近くの六甲山にも三回登りました。		OB会の関西支部としての活動を活発化しなければならないと思いつながら、休日になる	

第二回 O-B 会合宿総括

高谷池側と三田原山側の道をたどつて出発した搜索隊もただ黙りこくつて帰つてきた。

つていた。星が流れだ。もう寝息がきこえだした。

密島 (六期)

せつかく十三人分の夕飯を作

鳥の鳴き声だろうか。目を

つたけど、今夜はこれを九人りはしないんだ。明日になれでたいらげてしまおう。昼間を探す。耳をます。誰か呼んではいないか。笛がサラサラ鳴る。誰かがボツンと言

つたけど、上天氣である。仕事の都合等ですぐ下山する者もいる。搜索の為に高谷池へも出発した。燕からバスで

ば必ずニコニコして下りてくるに決つて。だけど今日テントキーバーが千八百円もみたいに途中から雨になるよ

一尺くらいの鮭を数尾バタ一
焼にし、ビールを抜いた。
荷物をまとめてバス停で待つ

うな場合も考えて、種々のケ
ースにつき打合せはしておく
べきだつたな。小さなパン
フレットでも良いから作つて

参加者に配つておくと良かつた。なにせ最近のO-Bは地図
頗る少くなつて一人の持ち
分が増たと喜ぶ無責任ぶりである。

焼きにし、何事もなかつたかの如
く喜々として食つて飲んだ。

であろうか。ふと登山口の方
をみると、来た来た。ニコニ

クナリしているよ。これ
としても小屋に行くなり、ビ
バクなりしているよ。これ
しきで遭難なんかするような
奴等じやなし。」「まあそ
だな。今頃ビールでも飲んで
るだろ。」と語りながらも
目は山に向けられている。

思つてゐる輩が多いんだから、最悪の場合も想定されたが全
連絡だけは密にしておかんと
あかんかつた。どうもこれが敗因だな。

て、現地の駅までくればあと
は誰かが何とかしてくれると
入つて明日の手配を検討した。

さて第三回合宿はガツチリ
した計画をつくらねばならん
な。現役時代を思い出して
きだらう。



になつても頂上までは行くべきだったのかな。しかし彼等はいやしくもY-WVのO-Bで天だろう。

霧が流れているのか星が見えかくれしている。明日は晴

ら顔を出してもう一度山を見た。黒い深々とした山がせま

貢合宿参加の記

喜納 (一期)

岩に風が鳴つて、暗く寂とした頂上である。霧ははれな。なにやらの明神の祠のかげでさきほどから待つている。待つ人は来ない。

予定では八月十七日十二時三十分笹ヶ峰牧場のテントから合宿A班がこの妙高山頂で燕温泉からのB班を迎えることになつてゐる。ここにいるのは私一人である。

燕から妙高へは一度のぼろうとしたことがあるが途中豪雨に遇つてひきかえした。そのときに劣らずにふる雨である。燕温泉でにぎりめしをたべてあるはじめたらふり出した。沢の瀬音と岩と岩とをめぐり白くわきかえる水、ぬれた山道のトケの葉、甘いよう鼻をさす山のかをり、雨はなしてしまつた。

私が頂上をこえてむこう側までゆくといつたのであとをついて来たのが、だんだん引き寄せられた。やがて、

は烈しく雷鳴がとどいた。「登るだけだな」私はそう思つた。

出かける前は笑つたりしゃべつたりにぎやかな山行になるとばかりおもつていた。偶然だが私は一人になり、自分自身は重荷である、たちはだかつてゐる。私は霧のたちこめた存在に入りこんだ。もうけしてひきかえしはしないだろう。

女の声で我にかえつた、登つて来る途中、雨のために登らうかもどろうか立ちどまつて考えていた一人の女である。

立派な小屋である。八角形で太い柱が陵をはり、三階まである。二階で石油ストーブにあたり、となりの男たちの梁ラーメンの議論を聞くともなく聞いていた。そんな話を誘う建物のつくりになつてい

地図をみせてもらうと笹ヶ峰までだいぶ時間がかかりそりである。女達とはつかず離れて歩いた。雨はもうやんど

いた。昨年の暮に十周年記念登山でいつた大室山の頂上で写真をとつたとき、現役の連中にうしろから押されていためた左足がだんだんいたみ出た。急な大倉東越をやつとめた黒沢までくだつたときキャンプ場から来た井上君に逢つた。火打にゆくのだそうだ。

翌日はよく晴れた。高谷池から見る火打岳はすばらしく

ンブをやつたりキャンプファイヤーでさわいだりした。

翌日はよく晴れた。高谷池から見る火打岳はすばらしく

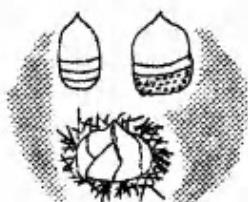
ンブをやつたりキャンプファイヤーでさわいだりした。

その夜は小屋の娘達とトランプをやつたりキャンプファイヤーでさわいだりした。

翌日はよく晴れた。高谷池から見る火打岳はすばらしく

ンブをやつたりキャンプファイヤーでさわいだりした。

いるが、最初の道がちょっとちがつて、私が抜いて来てしまつたらしい。



東南アジアを行く

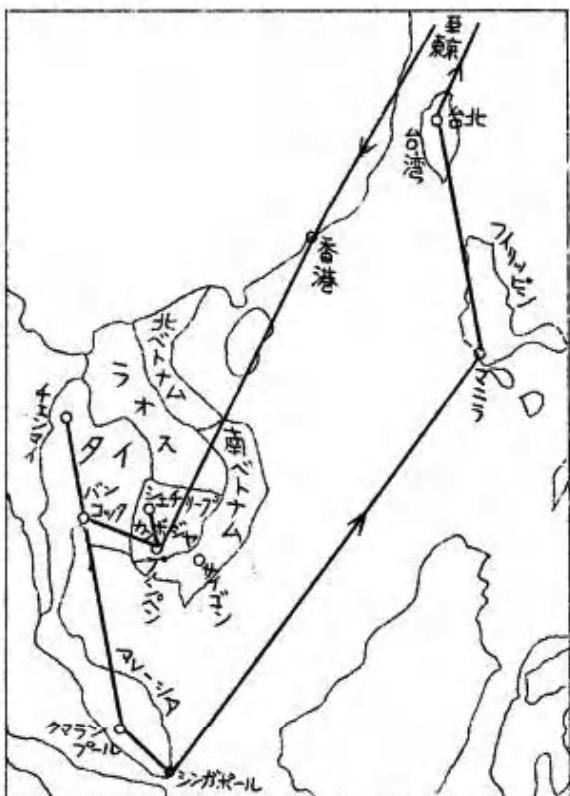
その一

このたび斎藤 氏から東南アジア旅行の紀行文が寄せられましたので三回にわたって連載いたします。尚氏はこれを契機として雀奴諸夫全集「ワンダーフォーゲルと共に」も出版されて張り切つておられます。

期間 三月三一日～四月一五日

香港→カンボジヤ→タイ→マレーシア→シンガポール→フィリピン→台湾

編集部



(◎目

香港は、他の東南アジア諸国と異なり、眼鏡をかけた人が多い。特に香港大学の学生は、男女ともほとんど眼鏡をかけている。

香港の案内は、フランク永井を案内したことがあるというクリヨン君にやつてもらつたが、中心街で昼食をともにしたとき、あれが中共の密偵だと、隣のテーブルの男を指さした。ちらりと見たが一般の市民と見分けがつくような鋭い目ではなかつた。香港島正面の中国銀行玄関に掲げられた毛主席万万才の文字、新界にある毛主席学校、時折見かけるショーウィンドウの中の毛沢東語録などをみると、密偵とはいつても、大っぴらに活動しているようだ。

アンコールワットのあるシエムリーブの夜は暗い。電灯が少なく、あつても電力事情が悪いためか、明るくない。そこで、メコン川の支流域に、約五十米四方程、暗やみを破つていて、一角があつた。そこは、アンコールワットの模型を中心として、広場になつており、一隅では、エレキバンドに合わせたフォークダンスを踊つている。最初は、女性だけであつたが、その後男性も恥しそうに加わる。別の一隅には、大きな建屋があり、その中で、踊り兼寸劇のようなものをやつていた。坊さんがでてきたり、きらびやかな衣裳をまとつた女性がでてきたり、オーストラリアの動物として有名なコアラがでてきたり……。車座になつて樂器を叩き、歌う、裸の青年達を食ひいるように見る目は、子供達も入れて、数百もあつたろうか。観衆と演技者的一体となつた中で、僕は、知らず、知らず、沖縄を思い

だしていた。

ブーンベンでは、トンレツ
ブ川に面したカンボジア王宮
前で、スハルトとシアヌーク
のバレーードが行なわれた。歓
迎のために、かき集められた

小学生女子の目はやはり、見
物していた一米婦人の脚に注
がれた。どうも、ストッキン

グが珍しいと言つているよう
である。僕も、カンボジア人
にとつては、外人のはずだが、
注視する人はいなかつた。

◎耳

香港からブノンベン及びシ
エムリープまでは、ロイヤル
エーカンボッジ。エアーベ
トナムもそうであるが、どう
もエアーフランスの下請け的
な存在のようだ。小さなプロ
ペラ機で、スチュワーデスは、
フランス人一人、カンボジア
人一人のみ。気密構造が悪い
のか、飛行中、耳がガンガン
したのには参つた。

台湾で面白いのは爆竹。ど
こへ行つても、バンバンとい

う音を聞く。行つてみると、
中国人はにぎやかなのが好き
葬式の行列だつたり、結婚式
の車だつたり、統一地方選舉

の車（人力車）だつたりする。

*編集部より

会員名簿の改訂版が発行さ
れましたが、ミスが多いよう

ですので各自の記載事項を確
認して下さい。若しミスがあ

りましたら編集部へ御連絡下
さい。次号会報に正誤表を載
せる予定であります。

編集後記

夏も終りだなあと思つてい
たら冬になつちやつた。秋が
ぬけたみたい。記事が珍腐化
してしまった。よし、今度
は公約しちやおう。次号は三
月末に発行致します。
M

- 8 -

OB会報第十号

編集責任者 密島
発行責任者 松本

印刷 橋
電板 謄写 堂
電話 橋
横浜市鶴見区生麦三ノ五
二四